

第3次  
行橋市子ども読書活動推進計画

平成31年3月

行橋市教育委員会

### 「第3次行橋市子ども読書活動推進計画」の策定にあたって

平成の時代は、ゆとり重視の教育から国際学力比較重視の教育への転換等、教育観の変遷がありました。その流れの中にあっても、底流には今も確かな学力と個性重視の教育が求められています。

いつの時代にあっても、普遍的な力、豊かな人間性や社会性は一貫して求められてきており、これからの国際化・情報化の社会においても必須の資質です。

ところで、子ども達に読書の習慣化を推進することで、子ども達は言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、多様な知識や人間としての生き方・在り方に触れ、豊かに生きていく基礎が築かれます。

このような資質や能力を育てる機会を、家庭や学校等の色々な場面で子ども達に与えて、幼少年期の経験として蓄積させることが周りの大人の役目です。

行橋市では、平成21年3月に第1次、平成26年3月に第2次の子ども読書活動推進計画を策定し、子ども読書活動を推進してきました。

就中、赤ちゃんと本とのよい出会いをつくるブックスタートや、家庭での読書習慣を推進する家読（うちどく）、本の楽しさを伝える読み聞かせ活動等が行われました。小・中学校ではこの十年間の子ども読書活動の推進により、一人当たりの貸出冊数が大きく増加しており、取組みの成果が見られます。

一方、現代の情報化の急速な進展は、ゲーム、インターネット、携帯電話に代表される情報メディアの急激な発展・普及を生み、子ども達はメディアへの過度な依存等、その影響を強く受け、読書離れが顕著に表れてきています。それゆえ、子ども達の発達段階に応じてきめ細やかな読書活動を推進していくことは、極めて重要なことです。

行橋市教育委員会では、市の子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、このたび「第3次行橋市子ども読書活動推進計画」を策定しました。今後は、子ども達が、多様な場と機会において、自主的に読書活動が行えるよう、子どもの読書活動の更なる推進に取り組んでいきたいと考えています。

市民の皆様や関係各位のご支援ご協力をいただきますようお願いいたします。

平成31年3月



行橋市教育委員会  
教育長 笹山 忠則

目 次

はじめに	1
I これまでの取組みの成果と課題	2
(1) 学校・家庭・地域における子どもの読書活動の推進	
(2) 子どもの読書環境の整備・充実とネットワーク化	
II 推進計画の基本方針	5
1 推進計画の趣旨	
2 推進計画の目的	
3 推進計画の基本方針	
4 対象年齢	
5 行橋市こども読書活動推進協議会	
III 乳幼児期における子どもの読書活動推進	8
1 読書環境の整備	8
(1) 乳幼児期の読書活動の充実のための開かれた学校図書館と図書の流通	
(2) 乳幼児への読み聞かせを推進するボランティア等の体制整備や研修	
2 読書活動の推進	9
(1) 発達段階に応じた絵本や物語の読み聞かせ活動の推進	
(2) 保護者への読み聞かせ啓発活動の推進	
IV 学校における子どもの読書活動推進	10
1 学校図書館の計画的な整備	11
(1) 学校図書館の蔵書等の整備・充実とネットワークによる蔵書の活用	
(2) 司書教諭や図書館教育担当者と図書司書の連携及び研修等の充実	
(3) 読書ボランティアの活用	
2 読書指導・読書活動の充実	13
(1) 発達段階に応じた年間指導計画の作成・実施・評価による充実	
(2) 「読むこと」の力を育てる国語科指導の充実	
(3) 問題解決力を高める各教科等の指導の充実	
(4) 子どもの読書の動機付けの機会の充実と読書行事等の実施	
(5) 読書活動を推進する小学生読書リーダーの育成	
(6) おすすめの図書ガイドブック等、推薦図書の紹介	
(7) 感想文や感想画等、コンクールへの参加奨励	
(8) 家庭との連携	
V 家庭・地域における子どもの読書活動推進	18
1 家庭・地域での読書活動を推進する開かれた学校図書館	18
(1) 地域に開かれた学校図書館の推進	
(2) 家庭・地域と市立図書館を結ぶネットワークの構築	
2 家庭・地域での子どもの読書活動の推進	19
(1) 乳幼児期からの読書の機会の提供	
(2) 家読の推進	
VI 市立図書館における子どもの読書活動推進	20
1 市立図書館の有効活用	20
(1) 市立図書館の有効活用と利用者サービスの充実	
(2) 市立図書館の子ども読書に係る蔵書の整備・充実	
(3) 市立図書館に関わる人的配置の充実	
(4) 学校図書館支援センターの設置と本の流通	
2 市立図書館における読書活動の充実	22
(1) 市立図書館における図書の利用促進	
(2) 乳幼児期からの読書の機会の提供	
(3) 小・中学校等とのネットワークの構築による連携・協力	
(4) 家庭・地域における読書活動の充実	
VII 資料	25

はじめに

第2次行橋市子ども読書活動推進計画では、第1次と同様に「保幼・学校・家庭・地域・市立図書館における子どもの読書活動の推進」と「子どもの読書環境の整備・充実とネットワーク化」の二つの観点から推進してきました。

まず、読書環境の充実では、乳幼児期においてはブックスタートの継続により子ども読書の大切さへの親の気付きの重要な場になってきています。

また、小中学校では学校・市立図書館相互のネットワークにより、児童生徒や教師のニーズによる図書及び教科用図書の有効活用が図られてきました。市立図書館では児童書の充実が図られ、子ども読書活動の読書環境が充実してきました。

しかし、地域に開かれた学校図書館については今後の課題となっています。

次に、読書活動の充実では、乳幼児期においては読書ボランティアの読み聞かせ等により乳幼児が集中して聞き、絵本好きになってきているという保護者の声も届いていますが、家庭により読書への関心の格差が大きいので、家庭への積極的な関わりが必要です。

小中学校では教育指導計画に則って、読書の日、読書週間、読書タイム等の読書行事や教科等による図書館利用等、読書活動が推進されてきたことで子どもの読書量が増加してきていると考えられます。

また、平成26年度から始まった県の「ふくおかうちどくりレー事業」（平成27年度からは「ゆくはしうちどくりレー事業」となる。）（小学校4年生を対象に1週間4～5冊の本のセットを家庭に持ち帰り、家読を行い、学級でリレーする取組み）、小学生読書リーダー養成講座の取組み、子ども読書を推進する事業が継続して行われ、子どもや保護者の意識の啓発に繋がってきていると考えられます。

これまでの取組みにより、子どもたちは豊かな読書環境の中で、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし豊かに育まれようとしています。その反面、情報化の進展のなかで、コンピューターゲーム、インターネット、携帯電話に代表される情報メディアが急激に発達・普及し、子ども達が情報メディアに強く影響を受け、又メディアへの過度な依存により、小学

校高学年以上から読書離れの傾向が顕著に表れ、豊かな人間性を育む読書活動の推進は今後益々重要になってくるものと思われまます。

そこで、一人一人の子どもの感性や表現力、創造性等の豊かな心を育て、人生をよりよく生きていく「生きる力」を育成するために「第3次行橋市子ども読書活動推進計画」を策定します。

## I これまでの取組みの成果と課題（平成21年度～平成30年度）

### 1 取組みの成果

#### (1) 学校・家庭・地域における子どもの読書活動の推進

##### ① 子どもの読書活動の推進

貸出冊数	H22年度年間貸出冊数	H24年度年間貸出冊数	H29年度年間貸出冊数
小学校	229,995冊/4,108人 (56冊/1人)	226,139冊/3,979人 (57冊/1人)	257,955冊/3,871人 (66.6冊/1人) (17%増)
中学校	18,797冊/1,972人 (9冊/1人)	17,234冊/1,992人 (9冊/1人)	25,978冊/1,773人 (14.7冊/1人) (63%増)

ここ四年間の小中学生の読書量をみると、第2次計画時より、大きく伸びています。年間一人当たりの読書量は小学校が9.6冊(17%)増、中学生では5.7冊(63%)増と大きく増えてきました。小学校では読書量の多い学校で92.9冊、少ない学校で53.3冊と格差が大きい。中学校はどの学校も小学校に比べ、貸し出し冊数は少なく、読書量の多い学校で20.7冊、少ない学校で10.7冊となっています。

評価項目	全校読書活動			読書週間行事			読書感想文			読書感想画		
	H22	H25	H29	H22	H25	H29	H22	H25	H29	H22	H25	H29
行橋市												
小学校(11校)	1.6	1.73	1.64	1.7	1.73	1.91	1.4	1.6	0.91	1.8	1.6	1.18
中学校(6校)	0.3	0.67	0.33	1.2	1.50	1.83	1.8	2.0	2.0	1.5	1.5	0.67

(平成22・25・29年度福岡県学校図書館コンクール評価表；満点2.0)

また、読書活動の実態調査によると、各小・中学校において全校読書活動や読書週間行事に力を入れてきた成果が見られ、読書量の増に繋がったと考えられます。読書感想文・画の取組みが減になってきています。

##### ② 子ども読書活動の工夫

小中学校では、「学び方指導・カリキュラムの作成」「授業利用」等、図

書館利用について工夫を行い、学級や教科の利用に繋がっています。

評価項目	季節や行事に即した展示		学び方指導・カリキュラム		図書館の授業利用	
	H25	H29	H25	H29	H25	H29
行橋市						
小学校(11校)	1.45	1.55	1.18	1.27	1.0	1.45
中学校(6校)	1.17	1.50	0.83	1.50	0.83	0.83

(平成 25・29 年度福岡県学校図書館コンクール評価表；満点 2.0)

また、新着図書の紹介や季節や行事に即した展示等工夫を凝らし、子どもの読書への関心を高めています。

### ③ 子どもが読書に親しむ機会の提供

平成 23 年 6 月よりブックスタートボランティア「ゆくはしゆめぶっくん」による 4 ヶ月児健診でのブックスタートが始まりました。毎年、4 ヶ月児約 600 名に読み聞かせ行い、ブックスタートセットを渡しています。当初、ボランティア数 27 名から現在 25 名で運営を続けています。

その成果として、0 歳児が集中して読み聞かせに聞き入り、とても絵本が好きになってきているようです。そして保護者も読書の楽しさや子どもの成長を感じて、読書の大切さを理解してきているようです。

#### ブックスタート

	平成 23 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
ブックスタート配本数	476 人	613 人	583 人	634 人
ボランティア数	27 名	28 名	27 名	25 名

#### 家読りレー

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
家読りレー数(小学生)	2,700 人	395 人	277 人	373 人

※平成 26 年度は県事業で実施

#### 小学生読書リーダー養成講座

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
読書リーダー参加者数	29 人	23 人	22 人	22 人

家読りレーは平成 26 年度県の「ふくおかうちどくりレー事業」として受け、平成 27 年度からは行橋市教育委員会が「ゆくはしうちどくりレー事業」として受け継ぎ実施しています。毎年 300～400 名位の小学生低・中学年児童が家庭で親子読書を行いました。そのことが家庭読書の大切さを示すきつ

かけとなり、啓発に繋がりました。

小学生読書リーダー養成講座では、各学校 2 名の子どもを養成し、子どもの側から読書の大切さを伝えるリーダーとして、研修した内容を各学校で広報しました。

## (2) 子どもの読書環境の整備・充実とネットワーク化

### ① 市立図書館や学校図書館の読書環境の整備・充実

子どもが利用しやすい図書館づくりに心がけ、児童書を計画的に購入して、蔵書が充実してきています。また、学校との相互貸借により子どもの読書ニーズに応えることができてきました。

小学生読書リーダー養成講座の継続的な開催により、学校と市立図書館の連携が一層図れました。

### ② 推進体制やネットワークの整備による読書環境の充実

行橋市子ども読書活動推進協議会を年 3 回開催し、計画を推進するとともに教育委員会と学校、市立図書館の連携を図っています。

学校と市立図書館のネットワークは、学校図書館の PC の増設及び学校図書館支援事業により充実してきており、子どもの読書の充実に繋がってきています。

## 2 取組みの課題

### (1) 学校・家庭・地域における子どもの読書活動の推進

○行橋市の児童生徒の不読率が全国に比べると高い。

小中学生が 1 ヶ月に本を読まない割合は、平成 25 年度調査の結果と同様に推移しています。しかし、一人当たりの年間の読書量は増えており、読む子と読まない子の格差が益々激しくなってきたと考えられます。

1 ヶ月の 不読率	小学校	H20	H25	H29	中学校	H20	H25	H29
		7.9%	9.7%	9.9%		22.0%	35.0%	34.5%

※平成29年度の全国の小中学生の不読率；小学生5.6%、中学生15.0%

(平成 20・25・29 年度行橋市の小中学生読書アンケートによる)

○読書離れが始まる小学校高学年からの読書の対策として、発達段階に応

じた子ども読書を推進し、読書習慣の定着を図る大切さ。

- 家庭における読書活動の推進として家読の取組み
- ブックスタートの拡充とボランティアの研修及び支援体制の充実
- 新しい市立図書館を活用した子ども読書活動の充実

## (2) 子どもの読書環境の整備・充実とネットワーク化

- 幼稚園・保育園の読書活動の市立図書館による支援
- 幼稚園・保育園・学校・市立図書館の連携とネットワークの充実
- 学校及び市立図書館の図書管理システムの一本化
- 本や読み聞かせ等の情報発信の充実
- 乳幼児の保護者の読書活動を支援する開かれた学校図書館

## II 推進計画の基本方針

### 1 推進計画の趣旨

基本理念

＜子ども読書活動の推進に関する法律第2条＞

子どもの読書活動は、「子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

### 2 推進計画の目的

「子どもの読書活動の推進に関する法律」（平成13年12月12日）に基づき、行橋市では平成21年度より「第1次～2次行橋市子ども読書活動推進計画」に沿った取組みが行われてきました。

10年間の取組みの中で、子どもの読書活動に関する行政や関係機関、教育者関係者の意識は高まり、ブックスタートやブック紹介、読み聞かせ、家読、読書タイム及び読書の日等の取組みが行われ、子どもの読書冊数はかなりの増に転じました。また、バーコードシステムやPCの追加配置により、ネットワークが充実したことから、学習関連図書の利用が増えたことも大きな成



果です。

しかし、限られた図書の有効利用や地域への利用促進を図る、開かれた学校図書館や児童生徒及び教職員のニーズに応える学校支援センターの設置等は、今後の取組みに待たれるところです。

また、小学校低学年生から高学年生・中学生に上がるにつれて、本から離れていく傾向、家庭によって読書への関心や取組みの格差が大きいという課題が残されています。

そこで、第3次計画では子ども達が発達段階に応じた子ども読書を通して、読書が好きになり、読書習慣が定着するような取組みが必要です。また、読書活動を支える読書ボランティアの支援、新規ボランティアの加入促進や研修を通じたボランティアの育成が必要です。

発達段階に応じた子ども読書活動として、乳幼児期では、ブックスタートをきっかけにして、乳幼児が絵本や物語を読んでもらうこと等を通して絵本や物語に興味や関心を示し、イメージや言葉を豊かにしながら、絵本や物語の世界を楽しむように読み聞かせの工夫をします。

小学生では、文字で示された場面や情景をイメージしたり、自分の考え方と比較して読んだり、本を選択して、その良さを味わうことができるようになったりするよう読書の工夫をします。

そして、自主的に読書をしようとする意欲や態度の育成、読書の習慣化を図ります。

中学生では、小学校で育てられた読書の力と習慣を継承し、本の内容に共感したり、感動したりできるように、学習指導要領を踏まえ、教科等との関連等を図り、多様な目的や興味・関心に応じた読書を推進するとともに、自分の将来を見つめ、自らの生き方や在り方に役立てるよう読書を推進します。

### 3 推進計画の基本方針

#### 【国の基本方針】

#### 第4次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」

(平成30年度～平成34年度)

#### (1) 国、都道府県、市町村の役割

- (2) 読書習慣の形成に向けた、発達段階に応じた取組み
- (3) 子供の読書への関心を高める取組み
- (4) 民間団体の活動に対する支援
- (5) 普及啓発活動

#### 【福岡県の基本方針】

##### 第3次「福岡県子ども読書推進計画（改訂版）」

（平成28年度～平成32年度）

- (1) 家庭・地域・学校・民間における子どもの読書活動の推進
- (2) 子どもの読書活動推進のための施設・設備等諸条件の整備・充実
- (3) 図書館間及び学校図書館等との連携・協力・ネットワーク化
- (4) 子ども読書活動に関する理解と関心の普及

#### 【行橋市の基本方針】

##### 第3次「行橋市子ども読書活動推進計画」（平成31年度～平成35年度）

- (1) 子どもの読書環境の整備・充実とネットワーク化
  - ・子どもの読書環境の充実のための市立図書館と学校図書館の充実
  - ・開かれた学校図書館と図書の流通による読書環境の充実
  - ・市立図書館と学校図書館のネットワークの整備による読書環境の充実
  - ・新図書館の活用による子ども読書活動の推進
- (2) 学校・家庭・地域における子どもの読書活動の推進
  - ・発達段階に応じた子ども読書活動の推進
  - ・子どもが読書に親しむ機会の提供と読書の習慣化
  - ・読書活動の充実を図るボランティアの育成と読書活動の理解・普及

#### 4 対象年齢

乳幼児期から前期中等教育期まで（0歳から中学生）を対象とします。

#### 5 行橋市子ども読書活動推進協議会

第3次「行橋市子ども読書活動推進計画」の推進のために、行橋市子ど

も読書活動推進協議会を設置し、その推進や連絡・調整を行います。

○行橋市子ども読書活動推進協議会の運営と関連諸機関・団体との連携を図ります。

○行橋市子ども読書活動推進計画の円滑な推進をします。

### Ⅲ 乳幼児期における子どもの読書活動推進

ブックスタートをきっかけに、乳幼児期や幼稚園・保育所等でよい絵本や物語に沢山出会うことは、子ども達の豊かな人間形成の上で大変大切なことです。子ども達が早い時期から読み聞かせボランティアの皆さんに出会い、大人との温かい関係の中で、絵本や物語を楽しみ、豊かなひと時を過ごす経験を積み重ねていくことは、豊かな感性や人との信頼感に繋がり、乳幼児期における大切な育ちを育んでいきます。

また、そのことで子ども達の豊かなイメージや創造性が育ち、ことばが豊富になり、小・中学校における基礎・基本の学力の育成に繋がっていきます。

#### 1 読書環境の整備

##### (1) 乳幼児期の読書活動の充実のための開かれた学校図書館と図書の流通

開かれた学校図書館や図書の流通を通し、絵本や物語本等の量的な充実を図り、乳幼児が絵本等に親しむ機会を確保します。また、幼稚園・保育所等では、公立図書館との連携の中で、乳幼児の読書環境の充実を図ります。

○開かれた学校図書館により、身近な図書館として、乳幼児への学校図書館の活用を図ることで、乳幼児期の読書環境を充実させ、豊かな情操を育んでいきます。

○公立図書館と幼稚園・保育所等とのネットワークによる連携を密にするなかで、幼稚園・保育所等における乳幼児の読書ニーズに応え、豊富で多様な図書を用意します。

## (2) 乳幼児への読み聞かせを推進するボランティア等の体制整備や研修

乳幼児が絵本や物語と楽しい出会いができるように保護者への読み聞かせ研修やボランティア等による「おはなし会」を実施し、乳幼児の読書活動を充実させるとともに豊かな親子関係の育成に繋げていきます。

○読み聞かせを推進するボランティア等の会をまとめ、絵本や物語、紙芝居等の読み聞かせ研修を行い、読み聞かせ等による子ども読書活動を推進します。

○ブックスタート事業を充実し、ブックスタートボランティアによる読み聞かせを通して、絵本や物語への興味や関心を育てるとともに、読書の意義や読み聞かせを通じた温かい親子関係の醸成を図っていきます。

## 2 読書活動の推進

### (1) 発達段階に応じた絵本や物語の読み聞かせ活動の推進

幼稚園・保育所等では、幼稚園教育要領や保育所保育指針に示されているように、乳幼児と様々な絵本や物語等との出会いを通して、その内容と自分の経験を結びつけたり、想像を巡らせたりする等させ、その楽しみを十分味わうことにより、豊かなイメージとことばに対する感覚を養えるよう読書活動を推進します。

○ブックスタートで本との良い出会いをつくり、その後発達段階に応じた絵本や物語の読み聞かせ等を行い、本への興味・関心を育てます。

また、絵本や物語の世界と子どもの体験を結び付け、想像するなどし、イメージや言葉を豊かに育成します。

○読書活動への教職員及び保育士の意識の高揚や研修を通しての資質の向上を図り、読書活動を推進します。

### (2) 保護者への読み聞かせ啓発活動の推進

乳幼児期からの本との出会いは大切です。特に、家庭において保護者がゆとりある時間の中で、子どもに本の読み聞かせを行うことは親子関係や豊かな感性を育てる上で大切です。様々な機会を通して、家庭での読み聞

かせを推進します。

○家庭で子どもに読ませたい絵本や物語等、発達年齢に見合った絵本等をガイドブックで紹介し、読み聞かせを推進します。

○市立図書館や開かれた学校図書館の利用促進、本の流通を図り、家庭での読み聞かせを推進します。



ブックスタート事業

#### IV 学校における子どもの読書活動推進

学習指導要領の総則、指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項に「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること」と明記されています。

学校図書館を活用した読書活動を通じて、子ども達は読解力や想像力、思考力、判断力、表現力等の生きていくための基礎的な力を養うとともに、多くの知識を得、多様な文化を理解することができます。また、書籍や新聞、図鑑等の資料を読み深めることを通して、自ら探求する楽しさや知る喜びを体得し、更なる知的探求心や真理を求める態度が培われます。

そして何よりも、主人公等登場人物の多様な生き方や在り方に触れることで、豊かな感性や心が育成される意義は大変大きいと考えます。

このため、子ども達が自ら読書活動に親しみ、進んで読書習慣を身につけていけるよう、子ども達の趣味や関心を尊重しながら、自主的な読書活動を推進していく機会や場を与え続けていきます。

## 1 学校図書館の計画的な整備

### (1) 学校図書館の蔵書等の整備・充実とネットワークによる蔵書の活用

平成 19 年度の小中学校の学校図書館標準蔵書冊数の充足率は 97.3%でしたが、平成 29 年度は小中学校の図書標準冊数は 157,720 冊で、蔵書達成率は 117.1 %となり、10 年間を経て約 20 ポイントの増加となっています。

	全蔵書冊数	学校図書館図書標準冊数	1校あたり蔵書数	蔵書達成率
平成24年度	174,601冊	156,600冊	10,271冊	112.8%
平成29年度	184,646冊	157,720冊	10,861冊	117.1%

法に基づく学校図書館図書整備費に比較すると、本市は充実した予算をつけ、蔵書の整備を行ってきました。

	図書購入費	1校あたり購入費	全購入冊数	1校あたり購入冊数
平成24年度	13,218,733円	777,573円	9,814冊	577冊
平成29年度	12,645,798円	743,870円	9,182冊	540冊

各学校の蔵書を更に充実させるためには、ネットワークで相互貸借を進め、各学校の蔵書の有効活用を図っていく必要があります。そうすることで読書センターとしての機能は更に高まっていくと思われま。

今後は、更にインターネット環境を充実させ、情報・学習センターとしての機能の充実を図っていきます。

- 各学校図書館と市立図書館のネットワーク化を推進し、図書の流通を図り、蔵書の有効活用を行います。
- 子どもの発達段階や興味関心等に応じて、調べ学習等のための図書整備やインターネット環境の充実を図ります。

### (2) 司書教諭や図書館教育担当者と図書司書の連携及び研修等の充実

法による司書教諭の配置は行われているものの、学級を担当する司書教諭には図書館教育に関わるゆとりはなく、各学校に配置している図書司書

に図書館教育が任されている状態です。しかし、読書活動等の重要性や意義を鑑み、担当者と図書司書との連携は大切です。

学校における子どもの読書活動を推進するために、司書教諭や図書館教育担当者と図書司書の連携の強化と資質向上のための研修を推進し、読書活動の充実を図ります。

○司書教諭や図書館教育担当者及び図書司書を生かす校内体制づくりや連携の充実を図ります。

○司書教諭や図書館教育担当者及び図書司書の知識・技術等の向上のための研修会の実施や各種研修会への参加奨励を行います。

### (3) 読書ボランティアの活用

平成 22 年度に行橋市読書ボランティア連絡会「そらいろのたね」が発足し、読書活動の研修や実践交流が相互に行われ、読書ボランティアとして活躍しています。

平成 29 年度の読書ボランティアの活用は、11 小学校（100%）、1 中学校（16.6%）で行われており、ブックスタートボランティアを含め 18 団体の読書ボランティアにより、各学校の児童生徒に読み聞かせやブックスタート等が行われています。

○行橋市読書ボランティア連絡会「そらいろのたね」の活動を促進し、読書ボランティアを活用した取組みの交流の場を設け、より効果的な活用を図ります。



ボランティア交流会

## 2 読書指導・読書活動の充実

### (1) 発達段階に応じた年間指導計画の作成・実施・評価による充実

学校における読書指導や活動は学校教育目標や重点目標を踏まえ、学校図書館教育の全体計画や年間指導計画等に沿って、意図的・計画的に実施されなければなりません。また、小学校の高学年から読書離れが始まることから、読書の楽しさを味わい、読書の習慣が定着するように下記のような発達段階に応じた読書活動の内容の工夫や場の提供を行う必要があります。そして、その活動が子ども達の読みの力や豊かな心の育成等に繋がったかどうか評価し、読書指導や活動の改善・充実を図っていくことが必要です。

#### <小学校低学年の発達段階>

一人で本を読もうとする時期となり、語彙の量が増え、文字で表された場面や情景をイメージするようになります。

#### <小学校中学年の発達段階>

最後まで本を読み通すことができる子どもとそうでない子どもの違いが現れ始めます。読み通すことができる子どもは、自分の考え方と比較して読むことができるようになるとともに読む速度が上がり、多くの本を読むようになります。

#### <小学校高学年の発達段階>

本の選択ができ始め、その良さを味わうことができるようになり、好みの本の傾向が現れるとともに読書の幅が広がり始める一方で、この段階で発達がとどまったり、幅が広がらなくなったりする者が出てきます。

#### <中学生の発達段階>

多読の傾向は減少し、共感したり感動したりできる本を選んで読むようになります。自己の将来について考え始めるようになり、読書を将来に役立てようとするようになります。

○各学校は、学校図書館教育の全体計画や年間指導計画に沿って、図書司書と図書館教育担当者との連携を図りながら読書指導・活動の充実を図ります。

○読書活動は子どもの発達段階に応じた読書の工夫をし、子どもが自分



の考えを広げたり深めたりするために、必要な本や資料を選んで読んだり、比べて読んだりすることができ、将来に役立てようとする資質や態度を育てます。

- 読書指導・活動を充実するには教師の指導が重要です。そのために教師の共通理解を図り、学校全体の読書活動となるよう取り組みます。
- 読書指導や読書活動の到達目標を明確にし、指導や活動を通した子ども達の成長の姿を評価（PDCA サイクル）し、改善に活かします。

## (2) 「読むこと」の力を育てる国語科指導の充実

国語科学習指導要領の改訂の趣旨に、「読書の指導については、読書に親しみ、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりするため、読書活動を内容に位置付ける」とあり、改善の具体的事項に「目標をもって読書し、日常的に読書に親しむようにすることや図書館の利用の仕方などを内容に位置付ける」と定められています。また、目的に応じた読書に関する指導事項として「目的に応じて、本や文章を選んで読むこととし、低学年では、楽しんだり、知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと、中学年では、目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと、高学年では、目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと」を示しています。

そこで、今後は国語科学習指導要領の趣旨を踏まえて、国語科における「読むこと」の力を育てる指導を重点的に行うとともに、国語と読書活動と関連させて指導の充実を図っていきます。

- 自分の考えを広げたり深めたりするために、必要な本や文章を選んで読んだり、比べて読んだりし、内容を的確に読み取る「読むこと」を重視した指導を行います。
- 目的や意図に応じ、内容や要旨を把握しながら、広い範囲から情報を集め、効果的に活用する情報検索・収集力や、比較・まとめ・説明する整理・活用力を育成するとともに、読書を生活に役立て自己を向上させようとする態度を育てます。

### (3) 問題解決力を高める各教科等の指導の充実

「生きる力」の育成は学習指導要領でめざす中心的な目標であり、そのためには子ども達の問題解決力を育成していかなければなりません。様々な資料等から、必要な情報を読み取り、問題解決に活かして行くことは国語科だけで育成することは困難です。他の教科や道徳、特別活動、総合的な学習等においても、多様な情報から必要な情報を読み取り、問題解決を図る力を総合的に育てて行かなければなりません。

○全教科や領域、総合的な学習で、目的や意図に応じ、図書館やインターネット等を活用し、必要な情報を得るなど、児童生徒の読み取る資質・能力を育成し、問題解決力を育てていきます。

### (4) 子どもの読書の動機付けの機会の充実と読書行事等の実施

子ども達の読書との良い出会いをさせることは大変大切です。そのことで読書への動機付けが図れ、子ども達が主体的な読書を行うようになります。

そのために楽しい読書の取組みを充実させる等、読書へのきっかけ作りを行うとともに、子ども読書の日(4月23日)の読書行事等、様々な機会を捉え、子どもの読書への動機付けを図り、読書への意欲の向上や読書の習慣化を図ります。

○子どもの読書への動機付けのために、低学年からの読み聞かせを充実させ、読書行事を実施します。

○読書会※1、ストーリーテリング※2、ブックトーク※3、アニメーション※4、書評合戦(ビブリオバトル)※5等、様々な機会を捉え、読書への意欲の向上や読書の習慣化を図っていきます。

※1 読書会：本の感想を話し合う活動です。本の新たな魅力に気付き、深い読書につなげることができます。

※2 ストーリーテリング(お話)：語り手が物語等を全て覚えて自分の言葉で語り聞かせ、想像を膨らませる活動です。

※3 ブックトーク：本への興味がわくように、あるテーマに沿って複数の本を紹介する活動です。

※4 アニメーション：グループ参加型読書指導。あらすじをクイズにしたり、読み間違えをわざと入れ、見つけさせたりするなどの手法で、読解力や表現力等を育てる活動です。

※5 ビブリオバトル：面白いと思った本を一人5分程度で紹介し、意見交換を行います。全ての発表終了後、どの本が一番読みたくなったかを多数決で選ぶ活動です。

#### (5) 読書活動を推進する小学生読書リーダーの育成

平成23年度から、子ども達が読書の楽しさやおもしろさを子ども同士で伝えることができるように、各小学校高学年の読書リーダーを養成しています。

当時「福岡県小学生読書リーダー活動推進事業」で始まった事業を、現在、市立図書館が中心となり実施し、読書リーダーの育成を行ってきました。今後も各学校の図書司書等の支援を受けながら、子ども達の主体的な読書活動の育成を図ります。

- 小学生読書リーダー養成講座により読書リーダーを育成し、読書リーダーが本の紹介や読み聞かせを行い、子ども同士で読書の楽しさやおもしろさを広げ、読書活動を推進します。

#### (6) おすすめの図書ガイドブック等、推薦図書の紹介

読書は子ども達の将来の生き方や在り方についての人生観や豊かな情操の育成に大変大きな影響を与えます。そこで、幼児期から子ども達が良い本と出会い、読書への関心をもち、積極的に読書を行うよう、発達段階や興味関心に応じたガイドブック等で図書を推薦し、読書活動を推進します。

- 発達段階や興味関心に応じ、積極的な読書活動を推進するために、おすすめの図書ガイドブックを作成し、図書を子どもや保護者へ紹介します。
- 小学生読書リーダー等、子ども達による本の紹介や図書コーナー等の工夫により、子ども達の読書への関心を高める読書活動を推進します。

#### (7) 感想文や感想画等、コンクールへの参加奨励

子ども達が読書感想文や感想画コンクール等に参加することは、本の目的や意図に応じ、内容や趣旨を把握しながら深く読む、読みの力を高めるためによい機会です。

これらのコンクールへの参加奨励を通して、子ども達への読書啓発や読書への意欲付けを行い、読む力を高めます。

- 課題図書や自由図書等の読書感想文や読書感想画コンクールに参加奨

励をし、子ども達の読む力や書く力、感性を育てます。

#### (8)家庭との連携

子どもの読書活動を推進するには、家庭の関わりが大切です。保護者の理解や協力を得ることで子どもの読書意欲は向上します。保護者による読み聞かせや本を話題とした子どもとの語らいの場を定期的に設けたり、学校図書館だよりや子どもの読書状況等による子どもとの対話をしたり等、家庭と連携するなかで、子どもの読書活動を推進します。

- おすすめの図書ガイドブックによる本の紹介や読書状況等を伝える学校図書館だよりにより、保護者の理解や協力を得ながら子どもの読書意欲を高めます。
- ノーテレビ・ノーゲームデーや読書の日等の取組みとして、保護者による読み聞かせや本を話題とする親子語らいの場を推進します。



読書リーダー養成講座

## V 家庭・地域における子どもの読書活動推進

子どもにとって家庭や地域は成長のためのベースであり、子ども達は家庭で保護者の深い愛情に生まれ、豊かに育っていかなければならないものであり、今まで地域は家庭が集合してコミュニティとして機能して、子ども達を育んできました。

子ども達は地域の中で人と人との関わりの中で社会性を身に付け、人として成長していきます。それは家庭と地域の良好な関係性があることでできるものです。地域で子ども達を育んでいく機能として地域の子ども会があり、その活動に期待が寄せられています。地域の子ども達を温かく育んでいく活動として、様々な体験活動が行われており、読み聞かせなどの読書活動も子ども達の心情を豊かに育み、読書で人を繋いでいく大変重要な取り組みです。

### 1 家庭・地域での読書活動を推進する開かれた学校図書館

#### (1) 地域に開かれた学校図書館の推進

本市には市立図書館が1館、学校図書館が小中学校の17館あります。就学前の子ども達は市立図書館の蔵書を利用して読書活動を行っています。市立図書館までは車で30分程度かかり、なかなか利用がしにくいという家庭もあります。しかし、本市の周辺地域にある学校図書館を活用できれば、就学前の子ども達に読み聞かせなどの読書を希望している家庭や地域にとって読書活動を推進する有効なシステムとなります。

○本市周辺部の小学校の図書館を地域に開放し、就学前の子どもを持つ家庭が利用できるように開かれた学校図書館としての機能を持たせ就学前の読書活動を推進します。

#### (2) 家庭・地域と市立図書館を結ぶネットワークの構築

子ども読書にニーズを持った家庭への多様なニーズに応えるために、市立図書館の豊富な蔵書の活用を推進するネットワークや本の流通システムの構築が必要です。本市周辺部の開かれた学校図書館から市立図書館の本が利用できるようなれば、家庭・地域での読書活動が更に充実したもの

になっていきます。

○開かれた学校図書館で市立図書館の蔵書の貸借システムの構築を推進し、家庭・地域の読書活動を推進します。

○市立図書館とのネットワークによる本の貸借、流通を可能にする学校図書館支援センターの設置を図ります。

## 2 家庭・地域での子ども読書活動の推進

### (1) 乳幼児期からの読書の機会の提供

ブックスタートで始まった乳幼児への読み聞かせは親子を読書で繋ぐきっかけとなります。その時、保護者は子どもにとって本との出会いが大変大切で、素晴らしいものであることを体験します。乳幼児期は、ことばや触れ合いを通して温かい親子関係をつくる重要な時期です。親と子どもが肌のぬくもりを感じ合いながら、絵本を読み聞かせる保護者の読書ニーズに応える家庭・地域での読書活動が大変重要です。

○地域における子育て支援サークル等での本の読み聞かせの実施と保護者啓発を行います。

○公民館における就学前の子どもを対象とした「読み聞かせ」講座や「おはなし会」等を実施します。

### (2) 家読の推進

経済が成長し、コンピューターや携帯電話等の情報ツールが普及し、益々個別社会となり、子ども達がゲームやパソコンを相手に一人で生活することが多くなってきました。家庭で、親子で共有する時間が減少し、親子関係の希薄化が課題となってきています。親子読書を通して、子どもが温かい家庭の環境の中で、親の愛情を十分に受けながら成長を育んでいくことが大切です。親子読書を推進する家庭・地域での読書活動が大変重要です。

○家庭への親子読書の大切さについて啓発し、読書を通して、温かい親子関係や豊かな情操を育む家読を推進します。

○毎月ノーテレビ・ノーゲームデーの日を家読の日と定め、小学生は親子読書を推進し、読書感想を出し合ったり親子ふれあいの場とし

たりして、中学生は、ゲーム等から離れ一人で静かに読書を楽しみ、読書を将来に役立てようとする時間とします。



家読の推進

## VI 市立図書館における子どもの読書活動推進

市立図書館は 17 館の学校図書館を繋ぎ、中心的図書施設として、市民の多様な読書ニーズに応えられるように、豊富な本や図書資料等を蔵書し、市民に読書サービスを提供しています。

市立図書館は子ども読書活動においても、ブックスタートの時期から学齢期の間、学校図書館とネットワークで結び、子どもや保護者の読書ニーズに応え、子ども達が良い本と出会い、読書の楽しさやおもしろさを味わう場を提供していきます。

また、新しく開館する行橋市新図書館を子ども読書活動への活用を図り、子ども読書の充実を図っていきます。

### 1 市立図書館の有効活用

#### (1) 市立図書館の有効活用と利用者サービスの充実

「子どもの読書活動の推進に関する法律；第 2 条基本理念」に謳われてい

るように、読書によって子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていくために、その中心的な機能を発揮し、すべての子どもが自主的に読書活動を行うことができるようサービスを提供します。

○子ども達への読み聞かせや読書指導の技術、資料提供のために、図書館司書や職員の研修を実施し、図書業務や読書活動に係る資質向上を図り、子ども読書活動を推進します。

○子ども達の多様な読書ニーズに応えられるよう、調査や情報発信・提供を行います。

○行橋市新図書館の「こどものフロア」を子ども達への読み聞かせに活用し、子ども達の読書への興味や関心を育て、読書の楽しさや意義について親が考える機会を作ります。

## (2) 市立図書館の子ども読書に係る蔵書の整備・充実

平成 29 年度の市立図書館の蔵書数は 234,832 冊で、そのうち児童書は 59,465 冊(25.3%)です。子ども読書活動を推進するためにも、今後は児童書等の充実を図っていきます。

○子どもに読書の楽しさを味わわせる豊富で多様な図書や図書資料を計画的に整備し、児童書の整備・充実を図るとともに、子ども達や保護者への情報提供を行います。

## (3) 市立図書館に関わる人的配置の充実

市立図書館職員は、児童書をはじめとする図書や資料の選定及び収集や提供、子どもや保護者からの読書相談やレファレンス（必要な資料や情報を必要な人に、的確に案内すること）、子ども達への読書活動等、子ども読書活動を推進するうえで重要な役割を担っており、人的な充実は大切です。

○子ども読書活動に係る幅広い相談に応じられるように、レファレンス技術の向上や読書案内の充実を図るための研修を行います。

○読み聞かせや読書活動のための人材の育成をします。



#### (4) 学校図書館支援センターの設置と本の流通

子ども読書活動の充実を図っていくために、学校図書館と市立図書館をネットワークで結び、お互いに蔵書している本の有効活用を図り、子ども達や学校図書館のニーズに応じていく本の流通システム構築が大切です。

- 市立図書館に学校図書館支援センターを設置し、子ども達や学校図書館、幼稚園・保育所等、開かれた学校図書館の読書ニーズに応えます。
- 学校図書館支援センターが本の流通を促進し、乳幼児や児童生徒の読書ニーズに応えます。



移動図書館「ゆっくん」

## 2 市立図書館における読書活動の充実

### (1) 市立図書館における図書の利用促進

市立図書館として、乳児が読書を始めるきっかけのブックスタートから幼児や児童生徒が読書の楽しさを味わい、読書が習慣化していくように、乳幼児の頃から絵本等に触れる読書環境を整えていきます。

市立図書館の利用者数（子どもの利用者数）の状況は年々減少傾向にあり、子ども達の利用数増加を目指し工夫を行います。

特に、新図書館の開館に際し、「こどもフロア」の活用を図り、子ども

読書の推進を図ります。

【行橋市図書館の利用状況】

	年間利用者数	年間貸出冊数	1日の貸出冊数	子どもの利用者(割合)
H20年度	115,345人	522,476冊	1,789冊	15,657人(13.6%)
H24年度	107,633人	467,889冊	1,613冊	12,439人(11.6%)
H29年度	91,588人	402,058冊	1,391冊	9,511人(10.4%)

○子どもの図書館利用や貸し出しの増加を目指し、子ども達の読書ニーズに応える児童図書の充実を図ります。

○読書会、ストーリーテリング、ブックトーク、アニメーション、書評合戦（ビブリオバトル）等、様々な読書の工夫を行い、読書の楽しさを感じ、読書への意欲が高まるよう工夫します。

(2) 乳幼児期からの読書の機会の提供

絵本は、子どもが最初に出会う本です。子どもは絵本の絵と言葉からいろいろなことを自由に想像し、学んでいきます。そして、本の楽しさや素晴らしさを感じ、豊かな人間性の成長が図られます。

乳幼児の時期から絵本との出会いのきっかけとなる読み聞かせ等の実施や絵本の紹介等を行い、読書の機会の提供をします。

○読み聞かせ会等を実施し、子ども達が本との良い出会いをする場をつくります。

○絵本や読み聞かせに関するリーフレットの作成や情報提供をします。

○ブックスタートの時に、本との出会いを推進する「絵本ガイドブック」の配布や「貸し出しカード」の紹介等の工夫をします。

(3) 小・中学校等とのネットワークの構築による連携・協力

子ども達が多様な図書や図書資料に触れるためには、市立図書館と学校図書館が連携・協力することが大切です。「ゆっくん」の活用や集団読書の実施、子どもの読書ニーズに応える図書の貸し出しのために、ネットワークを構築し、連携・協力を行っていきます。

○ネットワークの構築により、本の流通を促進し、子ども達の多様な読

書ニーズに応じた本の貸し出しをします。

#### (4) 家庭・地域における読書活動の充実

学校や市立図書館による子ども読書活動の取組みは、家庭や地域での取組みを行うことで、より広がりと深まりをもった子どもの読書活動を推進することになります。そのために、家庭や地域で読書活動を行うボランティア等を育成します。

○絵本入門講座や読み聞かせ講座等を実施し、子ども読書活動の推進のための人材育成を図ります。

○保育園や幼稚園、小・中学校等に読み聞かせ等ボランティアサークルを派遣し、読書活動の充実を図ります。



図書館等複合施設完成イメージ図



こどもフロアイメージ図

## Ⅶ 資料

### 第3次行橋市子ども読書活動推進計画策定委員

	氏 名	所 属	役 職 等
委員長	山田 英俊	行橋市増田美術館	館長
副委員長	光畑 眞哲士	福岡うちどくネットワーク	代表
委 員	中村 強	行橋市図書館	館長
委 員	松川 里美	行橋小学校読み聞かせ会	図書ボランティア
委 員	竹下 玲子	延永小学校読み聞かせ会	図書ボランティア
委 員	福田 里美	行橋市PTA連合会	小学校PTA
委 員	上田 あや子	行橋市PTA連合会	中学校PTA
委 員	中江 道直	行橋南小学校	校長
委 員	神原 修一	仲津中学校	校長
委 員	城戸 応昌	みずほ幼稚園	理事長
委 員	上野 一世	いずみ保育園	園長
委 員	加来 智恵美	蓑島小学校	教諭
委 員	大森 堅司	泉中学校	教諭
委 員	武内 芳子	延永小学校	図書司書
委 員	中尾 啓子	中京中学校	図書司書
委 員	土肥 麻紀	教育総務課	課長
委 員	吉本 康一	子ども支援課	課長

#### 事務局

事務局長	上田 直美	生涯学習課	課長
事務局員	重岡 洋佑	生涯学習課	係長
事務局員	加来 義宏	教育総務課指導室	係長
事務局員	七樂 由紀	生涯学習課	

行橋市子ども読書活動推進計画策定委員会開催状況

	開催日	検討内容
第1回	平成30年7月30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 委嘱状交付</li> <li>・ 第2次子ども読書活動の成果と課題</li> <li>・ 市立・学校図書館の状況</li> <li>・ 市内小中学校における図書館利用実態調査の結果</li> <li>・ 協議</li> </ul>
第2回	平成30年10月3日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第3次子ども読書活動推進計画について</li> <li>・ 推進計画の基本方針について</li> <li>・ その他</li> <li>・ 協議</li> </ul>
第3回	平成30年11月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第3次子ども読書活動推進計画について</li> <li>・ 乳幼児期における子ども読書活動</li> <li>・ 学校における子ども読書活動</li> <li>・ 家庭・地域における子ども読書活動</li> <li>・ 市立図書館における子ども読書活動</li> <li>・ その他</li> <li>・ 協議</li> </ul>
第4回	平成31年1月16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第3次子ども読書活動推進計画について</li> <li>・ パブリックコメントの実施について (計画(案)の内容確認)</li> <li>・ その他</li> </ul>
第5回	平成31年3月11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第3次子ども読書活動推進計画について</li> <li>・ パブリックコメントの結果について (計画(最終案)の内容確認)</li> </ul>

